

<心の栄養剤N O 18>

今年の最後に皆様に読んでいただきたいものがあります。宗一郎くんのメッセージです。

小児ガンで息子の宗一郎くん(8歳)を亡くされたお父さんが書かれたメッセージ集

より引用させていただきます。



息子宗一郎のお話をしますね。
彼は平成10年3月31日、光の世界に帰りました。
最後の3ヶ月は
実は病院ではなく自宅で過ごしました。

そのときのわたしたちは必死でした。

なんとかして病気を治して
もとの元気な宗一郎になってほしかったんです。
病気を治すいろんな器械も購入して使いました。
その他多くのことをやりました。

でも、いまから思えば

もっともっといっしょに
楽しんであげればよかったと思います。

日に日にやせ衰え、痛みを苦しむ息子を
わたしたち夫婦は精一杯看病しました。



自分では歩くこともできない息子をおんぶして
お風呂にそのままの姿で入ったとき、
痛みが少しやわらいた息子の顔は
とてもしあわせそうでした。
支えているわたしも泣きながら、
お風呂につかっていました。

**いてくれるだけでうれしい
生きていてくれるだけでありがたい。**

夜はわたしと妻の間に宗一郎が寝るのですが、
30分ごとに訪れる痛みをやわらげるために
わたしたちは彼の体の位置を変えて
さすってやりました。



正直言ってとてもつらかったです・・・

でも・・・でも・・・

いてくれるだけでいい・・・

彼がいなくなることがこわかったんでしょうね。

つらい痛みの中でもできるだけ、
わたしたちに笑顔を見せようとしていた子でした。

「おかあさん、ごめんね」
「もっと元気だったらおかあさん、
おとうさんも疲れないのにね」
「おかあさん、僕もっと生きていたいよ!!!」

痛みが出ると治療器で
その痛みをやわらげてあげました。

もう、これはいけないなと思い、
病院へ連れていく途中で、
意識があまり定かではない宗一郎が
こう言うんです。



「おとうさん、おかあさん、
信じあって、助けあって、
わかりあって生きてゆくんだよ」
「悲しいときや苦しいときほど、笑うんだよ」
「自分をせめることが一番いけないことなんだよ」

などと強い口調でわたしたちに言うのです。

病院での最後のとき、
たんが気道を満たして声にならない声で言った
最後の言葉が・・・

「ありがとう」なんです。

それまで全身の痛みで
抱くことができなかったのですが。
最後は母親に抱かれながら
静かに息を引き取りました。



このメッセージに対するコメントが
私達はもしかしたら

**「ありがとう」と言うために生まれて
きたのかもしれない!**

というコメントでした。
今年も残すところ、あと1ヶ月たらずと
なりましたが、この一年の皆様との
ご縁に心から「ありがとうございます」
と言わせてください。

皆様の師走がおだやかに、明るく、元気に
お過ごしになれる事を心よりお祈り
申し上げます。

ありがとう ありがとう ありがとう
ありがとう ありがとう ありがとう
ありがとう・・・

「ありがとう」が幸運を呼ぶ言葉のNo1です